

船井情報科学振興財団 留学報告書

金澤貴弘

2025 年 6 月 19 日

金澤貴弘と申します。今秋からシカゴ大学物理学科への留学を予定しています。現在興味をもっている分野は、主に生物物理・ソフトマター物理です。本報告書では、留学に至るまでの経緯について報告したいと思います。

まず、留学の動機についてです。高校生の間に生物に関する研究活動を体験する機会に恵まれました。そして、試行錯誤をくり返し、新たな理解を積み重ねるという過程を通じて、研究が楽しいと感じました。その後、大学においても研究を行う機会を得て、そのような思いは強まりました。そして、研究が盛んであるアメリカをはじめとする海外で研究を行いたいと思うようになりました。また、留学には、多様な社会や文化、価値観に触れることができるという魅力もあります。これらの思いは、後述するアメリカでの研究インターンを通して強まりました。また、環境を変える機会があれば、なるべく新たな環境を経験することには意味があると感じていました。それは、さまざまな環境に暮らすことは経験の多様性をもたらすからです。これは研究においても同様で、様々な場所で研究することで研究の幅が広がる可能性があると思っています。以上のような理由で、留学をしたいと考えていました。

次に、留学に向けて行ったことについてです。大学院での留学には、研究経験があるとよいといわれています。そのため、早くから研究の経験を積むようにしていました。また、研究経験は、留学のために限らず、大学院への円滑な移行という点でも役に立ちます。私の場合、大学で開講されていた研究体験の授業で研究を始めました。その後、いくつかの研究室でインターンなどを行い、さまざまな研究課題を体験しました。その中で、研究プロジェクトの始めから、論文にまとめるまでという一連の過程を経験することができました。特に、学部3年次の夏に行った、アメリカでの研究インターンは非常に楽しく、充実したものでした。この経験を通して、海外での生活や研究のようすを感じることができました。

また、大学院の出願前には語学試験などの受験や奨学金への応募、志望理由書の執筆、推薦状の依頼などをしました。その後の出願の詳しい過程などについては多くの方の報告書や記事があることに加え、大学や学科に依存する部分も大きいと思うので、ここでは割愛します。昨冬にアメリカの複数の大学院への出願を行い、その結果を踏まえて、最終的にシカゴ大学への留学を決定しました。

最後になりますが、これまでご支援いただいたみなさまに感謝いたします。これからの留學生活を楽しみたいと思います。